



廿日市市教委だより

令和元年
7月1日
第3号

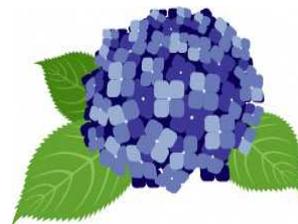
～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



新学期がスタートして、早くも3ヶ月が過ぎようとしています。多くの学校で運動会が開催されましたが、一つ一つの競技や演技に情熱を傾け、一生懸命取り組む子どもたちの姿に胸を打たれ、子どもから元気をもらった方も多いのではないのでしょうか。

また、主体的な学びの推進については、研究授業を中心とした校内研修が始まるなど、日々の授業改善につながる取組が進められていることと思います。

市教育委員会においても、年間を通して、様々な分野のプログレス研修を計画しており、その様子を市教委だよりも掲載する予定です。今回は、令和元年度第1回廿日市市「学びの変革」推進協議会（廿日市市プログレス研修「第1回研究主任研修」）の様子を紹介します。



令和元年度第1回廿日市市「学びの変革」推進協議会

6月18日（火）第1回廿日市市「学びの変革」推進協議会を行い、学力フォローアップ校である四季が丘小学校の小田先生が第6学年国語科の授業提案、阿品台東小学校の横溝先生が実践報告をしてくださいました。

研究授業 第6学年 国語科
「新聞の投書を読み比べよう」

本時の目標

理由付けの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、効果的な説得の工夫について読み取ることができる。

参加者の意見から

- ・本時の活動の流れを確認し、見通しをもたせていた。
- ・タブレットを活用して自分の考えを書き込んだり、考えを共有したりすることができていた。
- ・児童同士の発言がつながるように、効果的にタブレットを活用するとよい。（考えをノートに書かせたため、文型通りに読むだけになっている児童もいた。）

研究協議

今回、授業の様子をタブレットで撮影し、研究協議で活用するという協議スタイルを研究主任の先生方に体験していただいた。

タブレットを協議で活用する目的は

動画で可視化することで、授業者の手立てや発問が児童の学びに有効に働いたかを見取る。

動画をストックしてポイントとなる場面を比較することで、自校の授業改善の積み重ねによる変容を全教職員で共有することができる。

タブレットを協議で活用する等、各校における授業研究の進め方を工夫しながら、全教職員が「授業が変わってきたな。」と感じられるよう、取り組んでいきましょう！

広島県教育委員会

義務教育指導課 玉木指導主事から
しんどい子をターゲットに

「ほとんどの子ができている」ではなく「一番しんどい子ができているか」→授業のパロメーター

対象となる児童はどのようなつまずきをするか、それに対する手立てをどうするか。

研究授業をいかに日々の実践に生かすか

- ・多くの人が関わる事前協議の充実
- ・次の授業へつなげる

カリキュラム・マネジメント 教科横断的な視点

- レベル1 表面的なつながり
- レベル2 内容的なつながり
- レベル3 資質・能力的なつながり

＜校内研修のグレードアップを！＞

学力フォローアップ校事業指定校である阿品台東小学校から校内研修の様子について実践報告をしていただきました。指定1年目の昨年度は、年6回の校内研修を一本の線につないで、1回1回の研修会の質的改善を図ることで、「授業が変わった！」「子どもたちの学びが変わった！」と実感できる取組につなげることができました。

授業分析の仕方を焦点化

「児童への支援は適切に行われていたか」「つまずいていた場合、どのような支援が必要であったか」について協議。

今年度の取組へ



第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

児童の見取り方の工夫

観察する児童やグループを決める。

つまずきの多面的な分析

- ・授業のノートや宿題の日記等を丁寧に分析
- ・教科の系統性等からの分析（どの学年のどの学習でつまずいたのだろうか？）



廿日市市教育委員会では、2年前より教職員の働き方に対する意識の醸成の一環として、「夏季一斉閉庁」を実施しています。

今年度は、令和元年8月13日(火)～15日(木)の3日間を市内小中学校一斉閉庁日とし、土日や振替休日と合わせて6連休としています。この期間は、家庭からの緊急連絡も学校ではなく、市役所にしてもら

挑戦!!

学校における『働き方改革』

うなどして、学校から離れた余暇の時間を有意義に過ごしてもらえようとしています。この「夏季一斉閉庁」の期間を利用して、思い切って普段はできないことをやってみるなど、心身ともにリフレッシュして、2学期からまたしっかりと、子どもに向き合ってください。



危機管理マニュアルの見直し

今年度の危機管理マニュアルは、実態に沿った実用性のあるものになっていますか？ また、全教職員がいつでもどこでも対応できる、分かりやすいものとなっていますか？

危機管理マニュアルは、一度作成した後も、「**訓練**」「**評価**」「**改善**」を繰り返し行っていくことが必要です。

<見直しのポイント>

- 施設・設備や通学路、児童生徒等の状況に変化はないか
- 地域や関係機関との連携に変更はないか
- 防災避難訓練等での問題点や課題はなかったか
- 社会情勢や気象状況の変化、他校の事例等から、自校に不足している項目はないか 等

スポットライト!

~この人に注目~

◆太田先生は、昨年度より小学校外国語活動パワーアップリーダーとして、先進的な取組を進めてくださっています。

一外国語活動において何を大切にしていますか？

①「簡単な英語で気持ちを伝え合う Small Talk を大切にし、子ども達も先生方も楽しんでやり取りができるようにがんばっています。」

一先生方とどのように連携されていますか？

①「週に1回行われる職員の暮会で、日直の先生が簡単な英語を使いながら Small Talk を行います。先生方一人一人の個性あふれる内容の Small Talk で、職員室はいつも笑いに包まれます。」



佐方小学校 教諭
太田 絢子 先生

一パワーアップリーダーの太田先生だけでなく、学校全体で楽しみながら取り組んでいるようですね。

①「ALTの先生にも、身近な『外国人』として、しっかり子ども達に関わってもらっていますし、初めはうまく言えなくても、使いながら間違えながら身につける英語はとても楽しく、挑戦する児童や先生方の姿が佐方小学校外国語教育のパワーの源です!」

常に前向きにチャレンジし、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを子ども達や先生方に伝えてくださっている情熱にあふれる「人」でした。



高めよう!「自己有用感」! ~かかわりを通して

○自己有用感とは?

「他者」から認められて生まれる満足感のこと

行事を終えて運営の仕方や競技内容の感想等、保護者へアンケートをお願いすることはよくある事と思います。

今回は、アンケートの内容も「**行事を通して子どもたちの自己有用感を高めたい!**」という視点で考えてみると、工夫次第でアンケートをお願いする側もされる側もほっこりとした温かい気持ちになる、廿日市中学校の素敵なアンケートを紹介します。

つながれ! 広がれ! 「宝」の山

廿日市中学校では、体育祭を終えて、保護者対象に次のようなアンケートをとりました。

○良いところ発見!!

- ①体育祭を見て、改めて見直した「わが子」の良いところ
- ②体育祭を見て、改めて見直した「〇学年」の良いところ
- ③体育祭を見て、改めて見直した「廿日市中」の良いところ

○保護者のメッセージ ~ほんの一部を紹介~

- ①イキイキとした表情をしていて本気で楽しんでいる姿がよかったです。嬉しくなりました!
- ②一年生の時より堂々としていて、リレー等では仲間意識を感じました。
- ③生徒と教職員との一体感を深く感じた!

保護者とのかかわりを通して、他者に認められていることを実感させる取組。また1つ、廿日市の宝を見つけました。

廿深!!『学びの変革』②

全ての児童生徒の「主体的な学び」の実現に向けて

今年度は、全教職員が、各教科等において「課題発見・解決学習」を**領域・学年を拡大して**、1単元以上実践・改善します。

「課題発見・解決学習」を1単元実践すればよいというものではなく、**目指すのは日頃の授業改善**です。

日頃の授業の質を向上させていくためには、指導と評価の一体化が重要となります。日々の自身の授業を振り返り、次の授業につなげていき、「自分の授業が変わった!」と全ての先生方が感じられるようになってほしいと思います。

そこで、今年度は日頃の授業を振り返るための「振り返りシート」を各学校へ送付しています。その中で、具体的な授業改善の視点を示していますので、普段の授業、学年研修、校内研修等でこの「振り返りシート」を活用し、授業改善を進めていきましょう!

「主体的な学び」を促す日頃の授業改善の視点

児童生徒の学習意欲を喚起させるような導入の工夫が行われているか。

教師が話し過ぎず、児童生徒の言語活動を充実させているか。

目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定しているか。

多様な考えを引き出す「問い」の工夫が行われているか。本時の目標に対応したまとめを自分の言葉で表現させているか。

授業が変われば、子どもも変わる!